



みんなのできる 地球温暖化防止活動

— 住まい方（住宅）を考える!! —

福島県地球温暖化防止活動推進センター

事務局長 鈴木和隆

（特定非営利活動法人うつくしまNPOネットワーク）

■家庭部門の二酸化炭素排出量

日本の部門別二酸化炭素排出量の割合（直接排出量）は、エネルギー転換部門（発電所）が約40%、産業部門（工場など）25%、運輸部門18%、業務部門（ビル）6%、家庭部門5%です。家庭部門が少ないように見えますが、間接排出量で見ますと、エネルギー転換部門約8%、産業部門35%、運輸部門18%、業務部門17%、家庭部門14%と、家庭部門も大きな比率になります。より詳細は、日本国温室効果ガスインベントリ報告書などをご覧ください。

■ライフ・サイクル・カーボン・マイナス（LCCM）

家庭からの二酸化炭素排出量は、電力が45%、次いでガソリンが25%です。電気と車のある「便利」な生活です。「便利」なので、家庭部門の排出量は減っていません。この「便利」を見直す考え方が、LCCMです。LCCMとは、住まい方（住宅）から温室効果

※マークは県の地球環境保全のキャラクターです

ガス（CO₂）をマイナスにしようという考え方です。

■国産材を活用した本当の家づくり

郡山市に本社がある株式会社四季工房代表取締役の野崎進さんを、四季ゆいの郷（平田村）で住まい方、家づくりについてお話をお聞きしました。「省エネルギー住宅も大事ですが、山ですくすく育った国産材を積極的に使用することです。木は呼吸し二酸化炭素を酸素に変えてくれます。輸入材と比べ、国産材は輸送のための燃料が少なくて済みます。そして、日本の山を救い林業を活性化させます。」

■みんなのできる地球温暖化防止活動

「四季工房は木、土、紙といった天然素材で家づくりをしています。建て替えるとき再利用できます。伝統組み工法の技を継承するために、大工育成塾を開講しています」。四季ゆいの郷に併設されている木材加工場では、大工（棟梁）が墨付けをしていました。

「家を建てるとき、間取りを今の家族構成に合わせないこと、部屋を目的別に細かくしないことです。子ども部屋といっても、子どもも巣立ちます。家は性能ではなく、住み心地なのです。今、娘と山桜材の机に並び、娘は勉強、僕は読書しています。至福の時です。」
四季工房は、LCCM実践企業のようなのです。

（連絡先） <http://fukushima-ondankaboushi.org/>